

日立市社会福祉協議会 「会員募集」のお願い!

日立市社会福祉協議会は、「市民の皆さんと一緒にふくしのまちづくり」を進めるため、市内全域で「会員募集」を行っています。会瀬学区は、本年度も協力し、「コミュニティ推進員の方が会員募集活動を行います。皆さんのご理解とご協力をお願いいたします。」

●募集期間 7月1日～7月30日
●会費額 500円(目安)

令和2年度の会瀬学区の会費額は
367,150円でした。
ご協力ありがとうございました。
会費の一部は、会瀬学区の福祉活動に還元されます。

*活動紹介

・健康づくり部事業「健康づくりくらぶ」
交流センターを中心に健康体操や6月24日
常陸太田(大里町付近)へウォーキング)



骨盤体操(ペルビック)



久しぶりのまち歩き

・生涯学習部事業「会瀬浜太鼓」
2年生～6年生29名、中学生5名、
保護者2名合計36名 土曜日
月2回会瀬小体育館、今橋松男さん、
鈴木住恵さんの指導で練習。



学区社協事業

・サロン虹(軽体操)

仲間 17名、平均年齢77歳、
月2回の顔合わせを楽しんでいます。
軽い体操、リズム運動、
頭の体操や料理教室と
わいわいがやがや、
時には琴演奏を聴いたり、
会瀬の今昔の話や聞いたり、
最近の話題で話しあったり
相互の智恵を出しあながら健康チェック、今年度は仲間の趣味や体験を活用しリーダーになってもらい、フラダンスの体験をしました。秋にはグラウンドゴルフ大会(賞品付き)を計画しています。仲間も募集しています。興味のある方は見学に来てください。



・青少年育成部事業
未就学児親子対象「おおせひよこ・ちび
っこくらぶ」親子教室3回シリーズ
7月10日(土) 8組の親子、お父さんも
参加してリトミックを楽しみました。



ふるさと会瀬

「十四歳の戦争」から

日立が戦場となった1945年(昭和20年)から76年目の夏が巡ってきました。1990年(平成2年)発行日立高女(現日立二高)昭和18年入学生のお著「十四歳の戦争」から亀山節子氏の記録文の一部を紹介します。

焼夷弾投下 焼野原(昭和20年7月19日)

真夜中の空襲警報発令。焼夷弾投下。一度は防空壕へと避難しましたが、「焼夷弾だ!逃げろ、防空壕の中には死んでしまう!」早く、早く」と父の声。家族は助川鹿島神社の森へ逃げようとしたが、西の方はすでに焼夷弾が投下され、B29の爆音と、火の玉となつて落下する焼夷弾が火柱を上げて爆発炎上しはじめました。「これはだめだ。神社の森へは行けない。海岸の方へ行け」と父に言われて、家族6人、鹿島通りを海岸へと走りまわりました。弁天池あたりまで行ったころには、前方にも後方にも火の塊が落ちてきます。体がかがめながら、火の玉をくぐり抜けるようにして相賀町の踏切り(現在の旭町踏道橋付近)まで走りました。やっと海岸近くにたどり着いたとたん、海側も焼夷弾の雨です。山側から海側へと火に囲まれてしまいました。また、父の叫び声です。「線路伝いにトンネルへ行こう」。海岸工場へ入る貨車の引き込み線のトンネルで工場内へ入るのに、道路下がトンネルになっていたのでした。

そのトンネルへと逃げ込みました。真つ暗闇のトンネルの中へも時々閃光がさしこみ、思わず目を閉じて地面に伏せました。一面の火に囲まれ、あちこちに火柱が立ち上がるさまは恐怖そのものでした。トンネルの中で一夜を明かし、おそろる線路に出て我が家に向かいました。日立駅の方は一面の焼野原です。あちこちに白い煙が立ち上がり、あたりはききな臭いにおいでいつぱいでした。弁天池の近くに二軒焼け残ったわが家だけが残っていませんかと願いを込めて確かめてみましたが、残るは残骸だけでした。学校も工場も民家も全部灰となつてしまいました。わが家から常磐線を通る汽車が見えるようになってしまいました。三々五々、人々は避難先から戻りましたが、かわす言葉もなく焼け跡にただずむばかりでした。編集者注
・トンネルは日製日立事業所正門南側の地下に現存し常磐線沿いの道路から見る事ができる。
・焼夷弾攻撃により会瀬一丁目の家屋の多くは被災し全焼した。相賀町内では全焼した家屋は数戸であったが不発弾は多かった。

会瀬小学校放課後子ども教室

(チャレンジクラブ)

会瀬小学校放課後子ども教室は、全ての子どもたちが放課後の時間を、安全・安心に過ごし、様々な体験・活動を通して、他学年の子や地域の人の交流の機会を得られる居場所づくりの一環として実施することを目的として30回(祝日、長期休みは除く)6月の水曜日から開設しています。今年度1年生から4年生までの13名が下校後6時まで活動しています。途中からでも参加できます。クラス担任へ

外部講師
お琴体験
きら星の歌
を覚えました。



今年のはさつ
芋を育てます。
収穫が楽しみです。